

京都市文化観光資源保護財団

会報

No. 14



伝統芸能—八潮救免地踊

もくじ

文化財の紹介 建仁寺茶室「東陽坊」について
京都工芸繊維大学教授 中村 昌生

P 4～5

シリーズまもる⑭ やすらい花の伝承
やすらい踊保存会連合会会長

P 6～7

上田 要之助

会員だより

P 7～9

保護財団の活動

P 9～10

会報題字 理事長 佐伯 勇

会	報
No. 14	51. 9. 1

編集・発行

財団 京都市文化観光資源保護財団
法人

京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内
〒606 電話 075-771-6051

——日本のふるさと・日本の宝——

◎京の緑と文化遺産をまもりましょう◎

あなたも文化観光資源の保護者として

金額の多少にかかわらずご協力をお願いします

● 京都市文化観光資源保護財団は、京都の貴重な文化財、伝統行事・芸能並びに文化財周辺の景観を守るために広く国民各層の方々のご協力、ご指導によって設立しました。

● ご協力いただいた寄附金はすべて、基金として大切に管理するとともにその果実はすべて、文化観光資源の保護事業にあてられています。

(基金は京都市が責任をもって管理します。)

● 寄附は、所定の寄附金申込書により、財団事務局までお申し込み願うか、現金書留郵便または、所定の寄附金払込書により、京都市指定金融機関及び京都市収納代理金融機関へお払い込みください。

◎お問い合わせは

京都市左京区岡崎最勝寺町 京都会館内 〒606 電話075-771-6051

財団法人 京都市文化観光資源保護財団事務局まで

ご協力ありがとうございました
寄附者芳名録(敬称略)

51.4.15~51.8.15



寄附金取扱いを行なっている
某金融機関

—法人及び団体の部—

[特別会員] *金地院 <115万円>

[普通会员] *株竹下利 <31万円>

*高桐院 <21万円>

*要建設株 <17万円>

*国定織物株 <12万円>

*織悦株 <11万円>

*渡文株 <11万円>

*丸三株 <11万円>

[賛助員] *合三法堂 <6万円>

*厚木市立厚木中学校

<4万9千9百57円>

*株日産建設 <4万円>

*株吉田山荘 <3万円>

*有山中ケッテル製作所

<2万5千円>

*福寿染工株 <2万円>

*岸本元株 <1万5千円>

*京栄水道株 <1万5千円>

*有中川商店 <1万3千円>

*株楽味 <6千円>

*ヤマカワ株 <5千円>

—個人の部—

[特別会員] *石川秀男 <10万3千円>

[普通会员] *松野里香 <6万円>

*山口享 <6万円>

*山崎章 <5万1千円>

*水口英子 <4万1千5百円>

*竹内孫兵衛 <4万円>

*川口多恵 <4万円>

*三原慶三郎 <3万3千円>

*中島信太郎 <3万2千円>

*田中正男 <3万1千5百円>

*田中武次郎 <3万円>

*伊藤ナツエ <2万6千円>

*今井栄一 <2万5千円>

*佐野綾子 <2万3千円>

*左近真二 <2万3百円>

*左近智恵子 <2万3百円>

*尾池晴雄 <2万円>

[賛助員] *丸山末棹 <1万7千5百円>

*本田善一郎 <1万6千円>

*吉村武雄 <1万5千円>

*丹治富蔵 <1万5千円>

*岡本保止 <1万3千円>

*有本安喜子 <1万3千円>

*田村駒吉 <1万2千円>

*渡辺富蔵 <1万1千円>

*狩野修 <1万1千円>

*三好敦子 <1万円>

*広岡一 <1万円>

三浦俊良 <1万円>

*小林幸子 <1万円>

井上文太郎 <1万円>

*村田陶苑 <1万円>

*山口正治 <1万円>

*川勝常次郎 <1万円>

*前田英 <8千円>

*梅岡大祐 <8千円>

*小林多三郎 <7千円>

*田村彰敏 <7千円>

*中西喜代子 <6千円>

*大橋経治郎 <6千円>

*児玉誠 <6千円>

*藤田憲夫 <6千円>

*藤田皖士 <5千3百円>

*松本国康 <5千3百円>

*豊島正 <5千2百円>

*今井憲一 <5千円>

*奥田芳男 <5千円>

原山喜代 <5千円>

長谷川すみゑ <5千円>

*繁裕四郎 <4千円>

*西村弥五郎 <3千6百円>

*内田正和 <3千円>

*上田長雄 <3千円>

*望月秀祐 <3千円>

*関崎みのり <2千3百円>

*吉田篤信 <2千円>

*吉住幸一 <2千円>

*左近節子 <2千円>

*大野健三 <2千円>

*山本和彦 <2千円>

伊藤重和 <2千円>

*堀菊枝 <1千5百円>

*堀池嘉一 <1千3百円>

*細谷ます <1千3百円>

*村井進 <1千3百円>

*八木美幸子 <1千2百円>

*由利松治 <1千2百円>

*由利多 <1千2百円>

*鈴木光子 <1千2百円>

*前川貞一 <1千1百円>

*前尾修司 <1千1百円>

匿名 <1千円>

西岡タキ <1千円>

*入山敦子 <1千円>

*沢村彰 <7百円>

(*印は追加寄附の篤志者、寄附金額は累計額)



■ やすらい踊の

文化財記録映画完成!

京都市は文化財記録映画の第4弾目としてこのたび京都洛北に伝わる民俗芸能やすらい踊の記録映画を完成した。

(16ミリカラー15分もの)

京都市文化財保護課(電話075-771-6051)で現在申し込みにより一般に貸し出しているのでご利用下さい。

■ 秋の文化財特別公開のご紹介

● 仁和寺名宝特別展(仁和寺)

10月1日~10月15日(午前9時~午後4時)

● 醍醐寺霊宝館秋季名宝展(醍醐寺)

10月1日~11月28日(午前9時~午後4時)

● 大徳寺本坊曝涼展(大徳寺本坊)

10月10日(午前9時~午後4時)

● 宝鏡寺秋の人形展(宝鏡寺)

10月10日(午前9時~午後4時)

● 京都御所秋の一般公開は

10月13日~10月19日の予定。

● 文化財保護強調週間

11月1日~11月7日

—表紙写真解説—

■ 八瀬赦免地踊 ■

その昔、八瀬の地は後醍醐天皇が比叡山行幸のとき、八瀬村民が帝のためにつくした功により、永代地租免除の恩典に浴した。ところが江戸の宝永年間、この村と比叡山との間に土地争いがおこり、あやうくこの特典を取り上げられそうになったとき、時の老中秋元但馬守の努力によりその特典が守られた。地元ではその報恩のため、秋元神社を建立し踊りを奉納したのが八瀬赦免地踊の始まりである。

「文化財紹介」

建仁寺茶室『東陽坊』について



京都工芸繊維大学教授 中村昌生

建仁寺本坊は枝葉を茂らせた巨木があり今でもかなり広大な敷地を占めている。そのなかの方丈（桃山・重文）の北方に茶室「東陽坊」がある。近年荒廃していたのをこの程、修復が加えられ旧姿を復活した。

この茶室は、東陽坊長盛が北野大茶会るとき、紙屋川の土手に造ったもので、その後転々として現地に移されたと伝えられる。こうした由緒とそれを偲ばせるだけの形式手法を遺構にとどめながら、今日まで重文の指定も受けていないのは、沿革に不明な点が多いからである。

長盛は、真如堂の塔頭東陽坊に住していた僧で宗珍とも称し、斎藤利三、海北友松と交わり、利休に茶を学んだという。彼の茶についても知られるところが少いが、利休好みに表装された尊円親王の六字の名号を掛け、伊勢天目茶碗一つを所持して終生炉火を絶やさなかったという伝えから想像すると、佗茶の心意気をもった人のように思われる。

さてこの人の作と伝えた茶室は、いつの頃からか北野の高林寺にあった。『名園茶嗜』という茶室図に、茶室と露地を描いて

真如堂末寺北野高林寺東陽坊

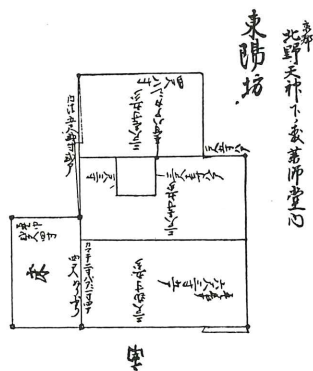
と記されている。また別に

北野天神下ノ森薬師堂内 東陽坊

と記した図も伝えられている。共に現存の茶室と同じ二畳台目下座床の席であるが、点前座の勝手付に、前者では洞庫（押入風の棚）がついていたのに対し、後者は現在と同じ色紙窓になっていた。また前者と同じく洞庫をそなえた起し絵図が松平築翁蒐集のものの中にあり、それには「千利休奴 北野高林寺ニ有之」と記されているし、『京都茶園亭室図』の「北野高林寺図 真如堂東陽坊末寺」とした図には「遠州候御如」としていた。このように同じ高林寺の茶室を、利休、遠州と伝えたものもあったが、ほとんどが東陽坊となっていたので、一応所伝を信じるべきであろう。

高林寺も薬師堂も明治に廃寺となり、茶室は転々としたのであった。一説には鳴滝の五条某→太田某→建仁寺護国院を経て大正7・8年に現地に移築されたという。現地へ移建については棟札によって大正10年であることが明らかとなった。北野から建仁寺に至るまでの過程についてはなお調査中で後日の報告に譲ることにし、ここでは一つの新史料を紹介しておこう。

それは鉄斎の描いた図とそれに書き添えられた記事である。図は点前座の台目を一畳に描き誤ってはいるが、洞庫の存在を書き留めている



京都北野天神下ノ森薬師堂内 東陽坊古図

し、水屋も茶道口のすぐ外に描かれ他の古図と合っている。その付記に次のように見える。

此全盛之時之指図也 詳細ナルハ四条高倉市原氏ニ蔵ス 参考スベシ

此現物旧北野馬喰町高林寺之三大師之堂之後ニ在 蓋北野大茶湯之節此所豊公馬繫場東陽坊之茶室其跡へ移セシ也 茶室ノ床下洗馬ノ設有リトソ 佗僧之活維新後此所取払可借シ極也 此茶室ヲ等持院村□□近松歌之助□□□と成□壊ち佗宅の後ニ自再び建置 其拙隔殆四観を喪ひ貧人之小茅屋にも劣れり 余全盛之時一覽し其□庵を觀たり 京師有名之茶寮を失ふ也

急いでメモしたので誤読もあろうが、一たん等持院村の近松氏の手に移ったこと、鉄斎がこれを記したときはずい分荒廃していたことが知られる。

そのような状態を経ながらも、現状はよく旧規を守り伝えている。もちろん、再三の移築で寸法や仕様の変更、また部材の取替え等はおこ

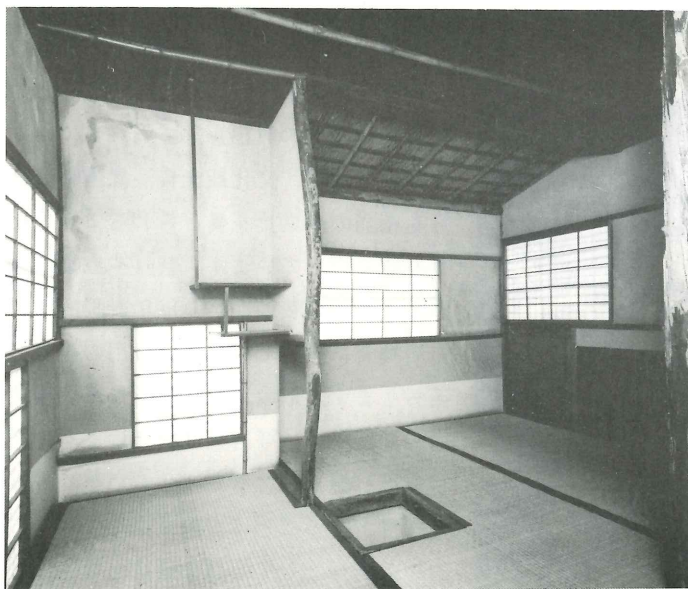
なわれているが、基本的には変りなく、部材も床柱、真塗の床框、中柱や軒桁の内側は古く、旧趣を出来るだけ保存する努力のなされてきた形跡も認められる。屋根や庇も今は瓦と銅板葺になってはいるが、その形態は余り変りないであろう。

やはり注目すべき変化は、洞庫から色紙窓になったこと、水屋が奥の勝手に移された点である。色紙窓と雲雀棚さえなく、客座から点前座へ一面の天井が張られた二畳台目は、織部風であり、遠州風である。他面床の墨蹟窓がなく、比較的窓の少い傾向は利休風である。そのような表現に、利休に学び武将とも交わりの深かった東陽坊らしい作意が示されているのかも知れない。但し色紙窓は慶長に入ってから織部の創始と考えられるから、北野大茶会のために造立したという伝えには、洞庫である方がふさわしい。

こうして東陽坊は、明証を欠くとはいえ、一概に伝えを否定しがたい内容を蔵している。江戸時代には真如堂の末寺に、そして

明治になって長盛の親しかった画家友松が作品を多く残した建仁寺に移されたのも、偶然とはいえないかも知れない。未指定とはいえ、京の文化史にとってはなほ貴重な建造物といわねばならない。

今回この名席がお寺の一旁ならぬ御努力で修復の成ったことを心から喜ぶたい。ただここで、今後のために、未指定とはいえ重要度の高い建造物の修理に携わられる技術者は、大変御苦労ではありますが、指定文化財に対するのと同等の心入れを以て手がけて下さるよう切望しておきたい。



建仁寺 茶室東陽坊内部

やすらい花の伝承

やすらい踊保存会連合会長

上田 要之助

鞍馬の火祭、太秦の牛祭と共に京の三奇祭として有名なやすらい祭（やすらい花）が昨年「記録作成等の措置を講ずべき重要民俗芸能」として国の選定を受け、目下歴史学者のグループに委嘱して其の記録作りに取組んで貰っていますが、一方市の文化財保護課の事業として、やすらい踊（やすらい花）の記録映画が去る七月中旬完成しました。

平安朝の頃、都に疫病が大流行した折、春の花が飛散し、疫神が分散して人を悩まし、疫病が流行すると信じられていました処から疫神（落花）を鎮める為、紫野今宮の疫神社（祭神素盞鳴尊）で御霊会が催され、都人の幣帛を捧げて詣でる者かずしれずと云われているが『百鍊抄』に「近衛院の久寿元年四月近日京中の兒女風流を備へ、鼓笛をしらべ、紫野の社に詣づ、



やすらい踊

世に之を夜須礼と号す。とありますようにやすらい祭が其の頃から始まった事は明らかであります。その後時代を経るに従い盛衰変遷を重ねたようですが、徳川時代となり元禄七年桂昌院殿（西陣の出身と伝えられる）が今宮の社殿と共に之を再興されたと伝えられています。其の後徳川時代末期迄は扶持としてやすらい田を与へられ、その他種々庇護を受けていたようです。又一般市民の疫病除けの信仰も篤く、特に西陣方面から相当後援を受けていたようです。天保年間上野のやすらい祭具衣裳新調に際しての奉賀帳が保存されていますが、之を見ましても近衛家を始め御所のお局方、西陣の機業家並に西陣の各町内の名を連ねています。そんな訳で徳川時代はやすらい祭の費用も割合ゆとりがあったようです。維新以後は扶持も無くなり、信仰の対象としての後援者も次第に減少して財政的に苦しい時期でありましたが、幸にやすらい祭が単なる民俗芸能でなく、氏神の祭礼として氏子が氏神に奉納する重要な行事であります為に在所ぐるみ家族ぐるみで万難を排し継続して来しました。戦後一時期実に苦しい時期がありまし

たが近年は氏子町内の戸数も増加して幾許かの経費の負担をして呉れるようになりましたし、文化観光資源保護財団からも相当の補助金を受けられるようになり有難く思っています。祭具や衣裳の補修には案外経費がかゝり毎年計画的に少し宛補充に努めていますが費用の捻出に苦勞します。財政以上に重要な事は後継者の問題です。今日迄は千年近くも先祖代々受け継がれてきたやすらい花の行事を守り育てることは当地に生れ住む者の当然の責務として何等の抵抗もなく地域ぐるみ、家族ぐるみで続けてきたのです

が、近來の様なめまぐるしく変る社会情勢や環境の変化は後継者である若人の、ものゝ考へ方に大きな変化を来しているようです。昔はこの祭に奉仕することに依って自己はもとより家族の悪神が祓われ、無病息災に通づると信ぜられて、自ら進んで奉仕したものでしたが、今の人にはそんな理屈は通用しません。殊に祭の中心が青毛赤毛の鬼であります、之がなかなかの重労働でお祭のまへに、数日間毎日二時間程度の稽古をして身体を鍛へておかななくては当日が勤まりません。高校大学生程度の年輩を当て、いますが敬遠されて説得に一苦勞です。何れの保存会も似たような状態だと思われませんが、結局後継者の問題が最も重要なことと思われま

す。近年民俗芸能、伝統行事に対して一般社会からの関心は非常に高まってきたようです。たとへやすらい祭の疫病に対する信仰が失なわれても無病息災民族の繁栄を念願した祖先の心を受け継ぎ子孫に伝えることは今の我々の責務であると信じ『お祭り馬鹿』に甘んじてきた我々です。今回国の重要民俗芸能と云ふ折紙がつけました事は保存会の運営・会員の指導後継者の育成等に大きな力となる事でしょう。連合会の各保存会共ども協力して、いつ迄も続けられますよう努力致します。今後共府市当局並に保護財団の絶大なる御指導御援助を御願する次第です。



京都洛北 北山風景

会員だより



洛北雑感

京都市左京区下鴨 堀 菊枝

折しも祇園祭。宵山のお囃子を聞き、あの絢爛豪華な鉦それに掛けられている美事なゴブラン織は遠くフランスから発生したものと聞き、またベルシャの段通中国のつづれ織と東西の揮然となったこの山鉦が今日に至った伝承がいかに貴重なるものであるかとつくづく感じて参りました。維新勤王隊を先頭にピーヒャラタタタターの笛と共に堺町御門から出発する時代祭の

壮厳さ、牛車を軋しませて静かに進む葵祭の優雅さ、どれもこれもその時節になるとじっとしてられなく大勢の人にもまれながら楽しむ事のよさを感じております。この外に数へきれない文化財、伝統芸能にかこまれている王城千年の都京都に住まいして三十年、その深い意味も知らず只莫然と明け暮れる事の勿体なきにふと気の付いた時この財団の発足を

聞き願ってもないことと早速入会、以来色々の行事に参加又はお話を聞かせて頂く度に事業の深さ大切さを感じてきました。そしてさゝやかながらも一人一人の自覚が大切な事だと思っております。

宝が池周辺の小さな山々を走り回っていた子供達は長じた今も北山歩きをこよなく愛しそれにまつわる話に花を咲かせる事も度々ですが京の文化の源となる土地の多いことに驚かされます。

つい先日ひどく荒れた夕立の後、虹の里と言われる岩倉。実相院を尋ねてみました。子規門の句に「拝観者我一人なる寒さかな」とあるそうですが蟬しぐれしきりの門に立つとさしづめ

「我一人なる暑さかな」と言った所でしたが、「実相院門跡」と札の掛った四脚門は堂々としており、あたりの木立の大きさは往年の隆盛を思わせるに充分でした。客殿、書院と文化財も豊富に残っていることであろうと心に残しつつも時間の余裕のないままにひきかへして来ました。

朝晩散歩に好適な疎水、流れも近年きれいになったもの、もう一つと言ふ感じですが、その堤の桜並木は美事なもので今年など土・日曜には可成の人が花見を楽しんでいました。それが終わった頃にはさつきがゆるくカーブした線に沿って色どりをそへて居ります。又此の頃ともなれば近くの方達の手になるカンナが赤・黄の色も鮮やかに力強く炎天下に咲き競っていますし、鳳仙花、甘草の花もなよやかに咲きつづいております。疎水の景色をよく美しくとの心の現れと思います。こうした細やかな心くばりも観光京都には大切なことだと思ふものでございます。

余暇の善用

京都市中京区西ノ京 福井 忠明

30数年前の昭和19年と云えば戦時中で私が15・6才で、当時或る軍需工場の養成工として通勤していました。工場には青年学校というものがあり、色々な事を教わりました。当時の娯楽といえば、数少なく、映画が好きでしたので、よく観に行きました。戦時中でしたので世間一般が落付きがなく、其の日、々々を生き延びていると云った感じでした。そうした中で青年学校の修養の時間での教務主任の話で「余暇の善用」と云う話の中で休みの時間を如何にして過すか等の話で、映画をみに行っても同じ時間、



妙心寺 東海庵方丈庭園
(昭和50年度整備補助対象)

読書をして過しても、又散歩をしても、お寺参りをしても、幸い京都には皇陵が明治天皇陵を始め数多くあるので、少しづつ、巡拝をしても無駄に時間を過すより幾らか貴重な時間を、有効に過す事が出来ると云う様な当時としても堅苦しい話が多かった様に思いますが、そうした話を聞いている内に今度の休みに一度近くの太秦の広隆寺へ行ってみよう云う気になり、一人なり、又兄にねだって近くの本屋で「皇陵巡拝のしほり」なる本を買って貰って1ヶ所1ヶ所お参りする様になり皇陵巡拝そして近くの社寺や旧蹟等に興味を持つ様になりました。

皇陵の方は京都市内60ヶ所を一通り巡拝しました。戦后にお参りしますと、戦時中は多くのお参りがありましたが、敗戦后には殆どお参りがなく珍らしがられたりしました。又山上や遠く離れた場所にある御陵等の御朱印が多く、又近くに2・3ヶ所ある時は1ヶ所の所に2・3ヶ所分の御朱印が置いてある等、人手の少ない時分がありました。社寺等でも、当時未だにお寺さん、神官等が復員されていない所も数多く見受けられ、当時の庭園が荒れているのを大変だなあと思ったりした事がありました。

2・3年前近くの信用金庫で社寺等の文化財の修理費等の目的を持って京都の文化財をまもるために、この財団が基金の募集をおこなって

おられる事を知り、少しづつではありますが寄附をして来ましたが、私が当時、タクシーの運転手をしていましたので5円玉等を少しづつ貯めまして2千円になれば持って行く様になりました。貧者の一灯の端くれにでも加えて貰えばと思ひまして現在も5円玉を主に3ヶ月、6ヶ月に1度位の割で、又今后とも続けて行きたいと思っております。



役員会の報告

—第15回理事会、評議員会を開催—

6月15日(火)、午前11時より京都都ホテルにおいて、舩橋会長(京都市長)、佐伯理事長をはじめ42名の役員出席のもとで、当財団理事会、評議員会を開会、昭和50年度事業報告並びに収支決算、役員の改選について審議され原案のとおり決定した。

■昭和50年度事業報告

1. 文化観光資源保護事業

文化観光資源の所有者、管理者に対する
昭和50年度補助金を交付

補助対象95件 補助金総額68,073千円

2. 文化観光資源保護思想の啓蒙(普及事業)



第15回 役員会

○「郷土芸能の夕」の開催(50.10.25)

於 京都会館第二ホール

○文化財特別参観の実施

第11回 無鄰庵 藤井有鄰館(50.9.27)

第12回 建仁寺本坊と久昌院(51.3.6)

○文化財保護強調週間行事

「講演の夕」於京都会館会議場

(50.11.5)

○伝統行事、芸能功労者(11名)及び文化観光資源保護協力者(13名)に対する表彰

○会報・しおり等の発行、文化観光事業の後援

2. 文化観光資源の実態調査と資料収集

4. 募金活動の推進

■役員の改選について

当財団全役員任期(2年)満了に伴う役員の改選について審議されたが、佐伯理事長の重任を満場一致で承認可決すると共に下記役員を除いて全役員重任を承認可決した。(新任者)

理 事 宮道大五(三和銀行会長)

評議員 吉武秀夫(国鉄本社旅客局長)

〳 渥美健夫

(日本建設業団体連合会会長)

〳 谷口久敏(京都地方同盟副会長)

なお、このたび任期満了によりご退任になられました村野辰雄理事並びに馬渡一真、前田又兵衛、青木比呂志評議員にはお礼申し上げます。

第13回 文化財特別参観

「高台寺とその塔頭、円徳院」報告

高台寺、蒔絵の妙味に酔う!!

桃山文化をたずね、高台寺、とその塔頭円徳

院の特別参観を去る5月29日(土)好天にめぐまれ50余名の参加のもとでおこなった。なかでも高台寺霊屋の豪華絢爛たる蒔絵には参観者全員が目があつまり、感嘆のため息がたえなく、参観予定時間を一時間ものびる程盛況のうちに参観を終了した。

第14回文化財特別参観のご案内

—西本願寺、と藪内流家元「燕庵」—

今回は、前回に引きつづき桃山文化をたずね西本願寺と藪内流家元の茶室燕庵の参観をおこないますので是非ご参加下さい。

◇参観日時 昭和51年10月9日(土)
午後1時(参観時間約2時間30分)

◇対象者 財団募金協力者(会員)とその家族(ただしお子さまの同伴はご遠慮願います。)

◇申込方法 往復ハガキ1人1枚に住所・氏名、年令を記入

◇申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町13 京都館内
京都市文化観光資源保護財団宛

◇参加費不用 お問い合わせは当財団事務局まで。(電話 075-771-6051)

なお、人数に制限がありますので、先着順により締切らせていただきます。

(先着50名まで)



編集後記



このたびは多くの方々からご寄附をいただき、心からお礼申し上げます。この中には、過去3年間、京都へ修学旅行に来られる毎に「京の文化財保護に役立ててください」と自分達の小遣の一部を寄せていただいている中学校の心あたたまる善意があり、また地元のかたがたからのご協力はもちろんのこと他都道府県からのご協力も、一際多くなってまいりました。ここからも京都の文化財が日本の宝であるゆえんがわかると思います。今後とも皆様方のご好意にむくいるよう、文化財をまもるために、さらに力を注いでまいりたいと存じます。皆様からの絶大なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

—京の年中行事より— (9月～11月)

9月 5日 松尾大社八朔源 松尾大社
8日 上賀茂紅葉音頭 上賀茂神社境内
8・9日 烏相摸と重陽神事 上賀茂神社
10月1～5日 瑞饋祭 北野天満宮御旅所
10日 八瀬赦免地踊 八瀬秋元神社

10月9～11日 壬生狂言秋の特別公演と
狂言面展観 壬生寺
20日 北白川高盛御供 北白川天満宮
22日 時代祭 京都御所—平安神宮
22日 鞍馬火祭 由岐神社
11月8・14日 火焚祭 市内各神社
23日 嵐山もみじ祭 嵐山渡月橋附近